

特集

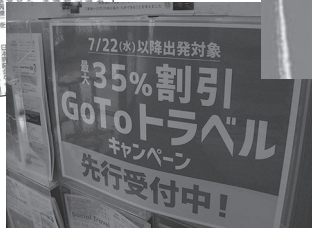
総点検・安倍政権のコロナ「対策」

◆特集にあたって

突然に世界を襲った新型コロナウイルス(COVID-19)の蔓延は、それぞれの国と社会に大きな衝撃を与えた。各国とも、否応なく突きつけられたこの現実に対応せざるをえない。同時に、この災厄は、克服しなければならぬ国家や社会の諸問題を可視化している。それぞれの国や社会の対応能力が試されている。

本誌は、本年五月号に「新型コロナウイルス問題を考える」を特集し、続く六月号の特集を「新型コロナウイルス問題があまり出したもの」とした。そして、今号は「総点検・安倍政権のコロナ「対策」」である。

唐突に生じた新型コロナ禍がいったいどのような現象で、社会的にいかなる意味をもち、どのような法的・政治的問題を孕んでいるのか。その関心に応えた特集が「問題を考える」という表題となった。次いで、感染症蔓延の現実が進行する中で、平時時には必ずしも十分に見えなかったこの社会の諸矛盾がさらけ出された。見えてきたものは、何よりも医療と福祉の脆弱性



であり、経済至上主義がもたらした、格差・貧困の実態であった。コロナ禍による経済活動の自粛は、社会的弱者への苛酷な皺寄せとなった。その実情報告が、「あまり出したもの」である。

そして、今号の特集は、「総点検・安倍政権のコロナ「対策」」である。コロナ禍が生み出した直接の問題点ではなく、安倍政権によってなされた「対策」を検証しようというもの。言うまでもなく、「対策」には括弧を付けねばならない。嘘とごまかしをもつばらとし、政治と行政を私物化してきた安倍政権である。コロナ禍がこの社会の矛盾点をあまり出したように、コロナ禍対策が改めてこの政権の体質をあまり出している。

総点検は、対策の分野別に、「経済」「財政」「税制」「労働」「外国人」「福祉」「ジェンダー」「政策手法」などを取りあげる。通底しているものは、一強体制のもと、国民からの信頼を失った政権の末期症状である。この期に及んでなお、相も変わらず新自由主義の本質と、オトモダチ偏重の体質である。

その破綻寸前の政権による、コロナ対策不手際の実態を明らかにしつつ、憲法の理念から根底的に批判することが本号特集の趣旨である。

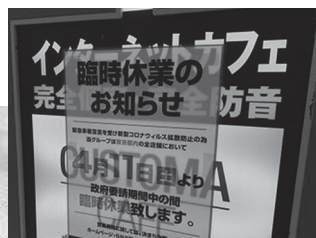
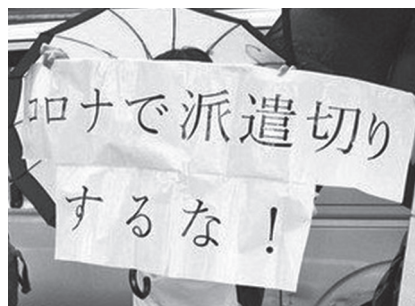
問題意識を示す「総論」は、編集部の澤藤が執筆した。本来、国はこのような危急の事態に弱者を救済するためにこそある。あるべき姿と大きく乖離した安倍政権の施策を批判するもの。また、コロナ対策において露呈した、政権の末期症状を素描している。

「経済」の部門は、浜矩子氏インタビュー。コロナ対策で露わとなったアベノミクスの本質を語り、そもそも経済とは人の幸せのためにあると力説。監視社会論やベーシックインカムなどにも触れて切れ味がよい。提唱される「人間の経済学」に耳を傾けたい。

「財政」は熊澤通夫氏に解説を願った。コロナ対策の財政出動は、時期に遅れ、生存権保障、事業継続の必要額に届かず、金融では内部留保豊かな大企業ほど有利。そして、一〇兆円の予備費計上が憲法上の財政民主主義を侵しているという。

「税制」は、すべての対策費用の財源に関わる論点。菅隆徳氏の論稿は、「コロナ税」や消費税増税を許さず、財源は大企業・大資産家に応分の負担を求めよ、という。さらに、法人税に所得税並みの超過累進課税の制度導入を提言している。

「労働」問題は、実務家にとって避けて通れない関心事。藁一郎氏の論稿は、コロナショック



によって深刻化している労働者の雇用と労働条件の危機に、安倍政権の政策が適切に対応しているかを問うもの。労働環境の激変にともなう諸問題が網羅的に論じられている。また、「外国人」労働については、板倉由実氏論稿が触れている。

「福祉」政策は、今がその真価を問われるとき。藤田孝典氏の論稿は、女性、外国人、非正規雇用、高齢者などあらゆる構造的差別がコロナ危機によってその弊害を増大させ、生存権の保障を危うくしていることを指摘している。

「ジェンダー」の視点からの問題点を明珍美紀氏が指摘。自粛要請の中でDV被害が深刻化している。にもかかわらず、暴力に対する処罰は生ぬるく、窮地に陥る人々への支援は不十分。それが、「女性総活躍」を掲げるこの国の実態だという。

「政策手法」は栗原猛氏。安倍政治の通弊を八項目にまとめ、それが、コロナ対策にどう現れているかを論じる。「コロナ予算と財政民主主義」「中抜き」「孫抜き」と利権構造「電通、パソナ」「トップダウン手法の功と罪」と肯かざるをえない。

栗原氏論稿の末尾が、「今一番大事なことは国民一人一人が、不真面目でいい加減な政治に怒りを発することではなからうか。」と結ばれている。これが、特集の結論でもあろう。

（「法と民主主義」編集委員会）